# 岩木川漁業協同組合創立 70 周年記念式典

日 時 令和元年11月20日(水) 午後 4時

場 所 藤崎町文化センター 3 F 多目的ホール



岩木川漁業協同組合

### 岩木川業協同組合創立 70 周年記念特別講演

【演題】"津軽"の形成と発展に寄与した岩木川

【講師】青森県環境生活部 県民生活文化課 主幹 中園 裕 様

	式 典					
開式のことば	岩木川漁業協同組合副組合長	藤	田	正	義	
式辞	岩木川漁業協同組合代表理事組合長	村	上	英	岐	
功 労 賞 授 与	岩木川漁業協同組合理事	雪	田	信	男	
来 賓 祝 辞	青森河川国道事務所事務所長	巖	倉	啓	子	様
	青森県内水面漁場管理委員会会長	濱	田	正	隆	様
	弘 前 市 長	櫻	田		宏	様
	藤崎町長	並	田	博	幸	様
	衆 議 院 議 員	木	村	次	郎	様
来賓紹介						
祝電披露						
閉式のことば	岩木川漁業協同組合理事	鈴	木	和	久	
	祝 賀 会					
開会						
乾杯杯	青森県内水面漁業協同組合連合会	野	5 月		誠	様
	代表理事会長					
余    興	第 24 回津軽三味線全国大会チャンピオン	•		幸	平	
	第 54 代青森県民謡王座	カ	ゝすみ	7		
祝    宴						
中締め	岩木川漁業協同組合監事	卢	子 菔	泰 ク	〉 彦	
閉会						

### 1. 母なる川 岩 木 川 について

- ① 青森県内で一番大きな川です(岩手県に源流を発する馬淵川は除く)。
- ② 岩木川の源流は、その昔、岩木山と称されたこともあったが、現在は、秋田県との県境「雁森岳(987m)」とされ、世界遺産白神山地の原生林を源とし、その渓谷は大川と呼ばれて津軽ダム湖に流入する。それが岩木川の旧名大川の語源となっています。江戸期から近年まで三川合流点(大川・平川・浅瀬石川)から上流を大川と呼んでいた。
- ③ 長さは源流より十三湖まで約102kmで全国42位。十三湖水門口まで、その範囲に加えると凡そ107kmになる。その間、8市町村を流れ、支川も入れると12市町村(弘前市・五所川原市・黒石市・平川市・青森市・大鰐町・藤崎町・板柳町・鶴田町・中泊町・田舎館村・西目屋村)になる。最大中心地は弘前市で人口約17万2千人。主な支川は、浅瀬石川44.2km・平川42km・旧十川など。その支川は多くの支流を持ち、支流もまた多くの支川・支流を糾合し、十三湖近くで5つの派川に分流し、現在は用水路(馬鹿川・三本川・西川・石川・早川)になって、本川は若宮水位観測所付近で十三湖に入り長い旅を終える。
- ④ 流域面積は全国第24位、2,465.2 kmで、その多くは水田として開墾されている。縄文海進期には現五所川原市まで古十三湖が拡がっており、その頃の汀、つがる市石神遺跡や田小屋野遺跡(共に縄文前期)では貝塚(ヤマトシジミなど)が確認され、亀ヶ岡文化として名高いつがる市亀ヶ岡遺跡(縄文晩期)もあり、弥生期の水田跡が見つかっている弘前市砂沢遺跡など、古十三湖岸段丘上には沢山の遺跡が存在している。

その後、岩木川からの土砂流入、平安時代の十和田湖噴火(915年)の火砕流(ラハール)堆積により下流域にも人が生活できるようになり徐々に開田された。最上流の西目屋村からは、縄文草創期(15,000年前~11,000年前)や縄文早期の遺物が出土しているなど、岩木川は古くから人との関わりが密接だった。川は文明発祥の地。

- ⑤ 岩木川は一度荒ぶると流域に多大な被害を及ぼす。岩木川の歴史は治水の歴史でもあった。昨年五所川原市で開催された「岩木川改修100周年」(岩木川改修100周年記念実行委員会)で詳しく紹介されましたが、十三湖水門口閉塞による水害、大雨による洪水の被害が各市町村で記録されています。筆耕者も二度水没を経験し、岩木橋(駒越:昭和33年:木造)が流失する際の断末魔の轟音は今も耳に残っている。
- ⑥ 現在のような車社会のない時代は、川は重要な交通手段でもあった。五所川原市湊、藤崎町船場、弘前市船水など、地名にその名残があり、江戸期には、三川合流点付近の三世寺に米の倉庫があり、十三湖を経て米を出荷し、明治期まで帆掛舟が遡上していた。
- ⑦ 旧目屋ダムの事前魚類調査によると、岩木川では50種類ほどの魚類が確認され、サケ、イワナ、ヤマメ、カワヤツメウナギなど、その多くが暗門沢まで遡行して産卵していた。現在でも、三川合流点付近までボラなどの海生魚が遡上している。

現在は禁止されていますが、江戸期から許可制度による鮭漁も盛んであった。アユの 築漁、アユの友釣り、ドブ釣り、イワナ・ヤマメなどの渓流釣り、カジカ漁、ウグイ漁、 カワヤツメウナギ漁、モクズガニ漁など多様な漁が行われ、伝統的漁法「しげた漁」や 「おしまくら漁」(後記写真)なども承継されて行われています。

#### 2. 漁協の略歴

昭和24年、戦前の入会権的な漁業法を否定的に解消し、新漁業法が制定され、各地に新しい漁協が誕生した。旧法当時の岩木川関連の漁協は、岩木川漁業協同組合(弘前市植田町)・大川漁業会(藤代村)・平川漁業会(田舎館村)・浅瀬石中野漁業会(黒石町)などがありました。

新法制定後設立された岩木川関連の内水面漁協は、岩木川漁業協同組合(駒越村)、浅瀬石川漁業協同組合(黒石町)、津軽淡水養成漁業協同組合(中郡境松)、平川漁業協同組合(中郡豊田村)、十川漁業協同組合(中郡中郷村)・浪岡漁業協同組合(浪岡村)、中里町漁業協同組合(北郡中里村)などが設立された。後年、岩木川さけます増殖漁業協同組合(大川)が設立されたが、近年、解散(解散時は、弘前市城南)した。

昭和24年11月29日、唐牛甚四郎(元藤崎町長)を初代組合長として設立登記。設立には藤崎町福井病院、板柳町桜錦味噌醤油油屋、新里福士氏(整体師)などの出資を仰いだという。ここから今年で70年になります。

昭和25年県の援助を得て、新里(松橋)に鮭孵化場を設ける。昭和後半、板柳町に養魚場運営。平成元年売却。70年の間、確認できる限り12名の組合長が就任している。 恥ずかしながら、途中、忌むべき事件もあり、組合員数も大きく減らし、組合事務所の焼失により組合資料の殆どを焼失した。

確認できる組合員数は、昭和35年の目屋ダム建設時の2,800数名を最高に、昭和41年度2,814名、昭和60年度1,193名と暫時減り始め、漁協最大の不祥事(平成15年)で半減し、以降、続減し、現在は247名まで減少した。

運営面でも、この8年で5人の組合長が変わるなど混迷が続いたが、現組合長の下に有意の組合員による自助努力の兆しがあり、久々のアユ釣り大会の開催、地域イベントへの参加・販売、魚の掴み取り実施など、大きく改善の兆しが見え始めて、昨年は新規加入者が久々に二桁になりました。

組合員の最長老は、昭和28年に組合員加入し、本日、表彰を受ける方で、88歳の現在も理事・協力隊長として各稚魚の放流活動、天然アユの汲み上げ作業に率先して川に入っています。昨年は、青森県内水面漁連の愛魚週間においても表彰されました。

### 3. 漁協の主な活動

戦後制定された漁業法により、各県に内水面漁場管理委員会が設置されて、その河川規模に応じて、免許魚種の稚魚を放流することが義務付け(示達量)られ、当漁協にも示されていますが、恥ずかしながら、この何年かは資金不足により、イワナを除いて達成できていないのが実情です。

漁協の大きな活動の一つ稚魚の放流活動は、後記写真のように、小学生や保育園児などの体験学習の場として実施しています。近年は、指導により川遊びが禁じられていることがあり、川遊びする子供の姿が川から消えて久しく、子供たちの歓声はとても嬉しい。

漁協では、現在、アユ・ヤマメ・イワナ・ヒメマス・フナの放流活動を行っています。組 合員協力隊により、主流は勿論、支川、支流にも放流しています。この3年は、津軽ダム 湖にヒメマスの放流を行って、ダム湖内の遊漁活動を模索しています。

漁協の今一つの大きな活動は、岩木川における遊漁者への遊漁券販売があります。遊漁券は、全魚種券(年券)、渓流魚券(アユを除く年券)、日券(当日券)の3種類があり、その他、青森県内水面漁連が販売する県内共通遊漁券(年券・渓流魚券)があります。

当漁協の遊漁券の販売は、流域に所在する釣具店に販売委託している他、組合員による現場売りもあります。販売額は、平成12年の320万円をピークに、現在は、その10分の1まで落ち込んでいます。これは、釣り離れもあるかも知れませんが、川の現状に対する不満の表れかと危惧もしています。ここ数年、遊漁券の販売額は低迷していましたが、今年は、過去6年間で最高の販売額を記録し、ここでも少し回復傾向が表れています。

この他の活動としては、各官公署で行っている魚類調査や水質調査、河川工事などに立ち合い、河川環境の実情把握に努めています。特にここ最近は、内水面漁連が行うカワウによる食害の調査に参加して実態調査を行っています。何れはドローンを使って追い払いなども実施されることになるかと思います。

岩木川は河川に存在する人工構造物も多く、特に川幅一杯に設置される構造物は、魚道が設置されているものの、どうしても滞留する者があり、滞留することは前出のカワウなどの食害を受けることから、汲み上げをして上流部に再放流する作業も行っています。

漁協の活動の一つとして、釣りの普及活動もあります。今年は、久しく絶えていた「アコ釣り大会」を実施し、組合員のみならず遠方からの参加者もあり、優勝者は良型のアコ32匹を釣り上げるなど予想以上の釣果でした。

今年は、ここまで寄せられている組合員からの釣果報告も、この数年では最高の漁獲高で、ここでも回復傾向が見受けられます。

昨年からは、地域のイベントに積極的に参加し、魚の掴み取りや釣り、焼き魚、カニ鍋の提供などを鋭意行ってきました。また、漁協ピーアールのためホームページを作成し、 行事案内・活動報告、紹介などを復活しました。まだまだ模索段階ですが、漁協の活動の 在り方を試行しています。

### 4. <u>これからの漁協</u>

今般、70周年を迎えましたが、何処の漁協と同様に、当漁協でも組合員の多くが高齢化しており、伝統漁法の継承、アユ築、各釣り大会の復活に向けて、新規組合員の確保と育成、組合員の行使料以外の自助努力による資金確保が急務となっています。そのためにも、この最近行っている地域イベントへの積極的な参加、地域観光としての観光アユ築の復活など、他の団体との連携も今後必要だと考えています。

現在、観光築と共に冬季間の釣り活動として津軽ダム湖のワカサギ釣りを検討していますが、そのための先進地への視察勉強を実施し、取り組みを加速したいと思っております。

少子高齢化社会を迎えて、近未来、海面漁協と同様に、内水面でも統廃合が進められる 時期が来そうですが、それまでに知識と経営体力を付け、揺るぎない岩木川漁業協同組合 を次世代組合員に残すよう、これからの日々心して取り組んでいきたいと思考しています。

#### ~主な参考文献~

「 岩 木 川 物 語 」 長尾角左衛門 著(国書刊行会)

「 聞き書き 青森県の内水面漁業 」 米谷米三郎 著

### 岩木川漁協・活動風景



アユ釣り大会入賞者



イワナ釣り大会



組合理事所有津軽丸での魚類調査



藤崎ナベワングランプリ参加 (最下位)



カワウの大群・芦野頭首工



今年異常に多かったシラサギ

今年は、久々にアユ釣り大会を実施しました。短時間で良型を32匹釣り上げた方は、員外の方でした。この三年ほどカワウ調査をしていますが、芦野の数百羽を見ますと、カウント出来ません。鳥だけでなく雷魚などの外来種による食害もあります。地域イベントへの参加は、今後増やして、漁協のアピールをして仲間を増やしたい。

### 2019年度・稚魚放流学習体験風景

### 及びアユ汲み上げ放流風景



6月6日・アユ放流:サン保育園・ ニコニコ保育園・西ケ丘保育園児



アユ放流:サン保育園児



アユ放流:城西小学校生



6月7日・ヤマメ放流:相馬こども園児



6月7日・ヤマメ放流:新和小学校生 ライフジャケットは国交省からの借用



6月23日・イワナ放流:西目屋カヌー大会会 場にて:大会参加者・ガールスカウトなど



2018.6.2~ヤマメ放流:武田小学校生 今年は魚道緊急工事のため中止



2018.6.13~ヒメマス放流:西目屋村 小学校生・保育園児 今年は荒天により中止



6月4日~芦野頭首工魚道で滞留魚の汲み上げ



5月25日~上流上岩木橋付近に再放流



汲み上げ放流



7月31日~上水道ラバー堰に滞留する魚類の | 5月31日~上水道ラバー堰にて、こんなのも 居ます。これでも小さいが、ご満悦の組合長。

当漁協では、創立から毎年各稚魚の放流活動を行っています。本年も、アユ・ヤマ メ・イワナ・ヒメマス・フナなどの稚魚を、小学生や幼稚園・保育園児の手伝いを得 て、写真のように実施しました。子供達の歓声に頬が緩みます。

この他、頭首工やラバー堰、用水堰の滞留魚の汲み上げ放流作業の実施、魚類の調 査、水質の調査などへの立会業務などを毎年実施しています。

### 岩木川漁協・伝統漁法しげた漁:おしまくら漁風景



鉄筋を打ち込む



鉄筋に柳を張っていく



砂利を集める



集めた砂利を敷いてウグイの産卵床を作る



砂利を沢山集める 左の監督は指図するだけ



後は仕上げをご覧じろう待つだけ

しげた漁は岩木川に限らず、各地の川で行われている。土地によっては「すげだ」「すぎた」と呼ばれている。岩木川でのしげた漁は、大別して「柳しげた」と「石しげた」の2種類があり、写真のしげたは、その双方を加味したもの。何れもウグイの産卵床なのだが、そこに集まったウグイを投網で採ることは共通している。



川ヤツメウナギ



ウグイを開いて串焼き



しげた柳小屋で串焼き



焼いた魚をべんけいに刺して保存



右から2番目が「おしまくら漁」の 承継者新谷さん



小砂利の上を柳で作ったロールを 押して下流の網でかじかを採る

ウグイの産卵床には、川ヤツメウナギも集まることから、同時期に「笯(どう)」を 置いて採捕する。ここ数年は、ウグイも川ヤツメウナギも減少している。

おしまくら漁は、文字通り河床を柳で作ったロール状に東ねたものを転がして、驚いたカジカを下流に定置した網で採る漁法。近年は上流から小砂利の供給が減少して 適地が少なくなった。これらの漁は、縄文の頃からの共同作業の残滓かも知れない。

## 岩木川漁業協同組合役員名簿

代表理事組合長 村上 英岐 藤田 正義 副 組合 長 佐々木 潔 IJ 一戸 理 事 儀雄 誠一 坂本 IJ 信男 雪田 IJ 三浦 正也 IJ 齋 藤 裕 IJ 葛西 秀正 IJ 鈴木 和久 IJ 工藤 富士夫 IJ

監事丹藤公彦"三上智